

## 緊急提案

女性・若者ととも高年齢者が参加してほんとうの「一億総活躍社会」をつくるために—  
各地各界で活躍している既知未知のみなさまへ

2016・5・3 記



坪内正範

拝

web「月刊丈風」編集人 高年齢化問題ジャーナリスト

朝日新聞社社友 元『知恵蔵』編集長

迷惑メールに紛れて迷惑にならないようお願いしつつEメールの広報力を信じて・・・

「長寿をすべての国民が喜びの中で迎え、高年齢者が安心して暮らすことのできる社会」を目標にかかげた「高年齢社会対策基本法」の制定は1995年11月・村山内閣のときでした。そしてその具体的な指針となる「高年齢社会対策大綱」の閣議決定が1996年7月・橋本内閣のときにおこなわれてから、ちょうど20年になります。

この間、一年又一年、先人が思い描いてめざした「新世紀の日本社会の姿」の実現にどこまで努めてきたでしょうか。

折りしも安倍総理は、昨年10月に「一億総活躍」をとなえて担当大臣を登場させましたが、オールジャパン経済社会にするために女性と若者に加えて高年齢者参加を呼びかけることはしませんでした。それゆえ「新・三本の矢」は目標がばらばらで、これを「無的放矢」と申します。

「一億総活躍」をいう安倍政権の「新三本の矢」は、高年齢者が安心して暮らすことのできる社会をめざし、潜在力を保つ高年齢者層の参画を求めることでマトがしぼられるのです。

☆「GDP600兆円」には、生活感性の高い熟年期の人びとの暮らしを充足する「優良国産・地産品」を、高年齢者の技術・知識を活かして創り出すエイジノミクス（高年齢化経済）が必要です。

☆「出生率1.8」には、若いふたりへの直接支援ばかりでなく、祖父母世代の配慮によって、結婚して子育てをしやすい環境づくりが必要です。

☆「介護離職ゼロ」には、何よりも高年齢者同士の「助け合い」による敬老介護が必要です。

高年齢者（65歳以上）が、国民・市民・住民の4人にひとり（約3400万人）に達したいま、「成長力（青少年）+成熟力（中年）」に「円熟力（高年）」が加わった三世代力が支え合って創り出す「平成成長社会」こそが、史上に新たな「一億総活躍社会」の創出ではないでしょうか。

三世代が力を合わせてオールジャパン（一億総活躍）の「平成成長社会」を創出すること。その活動が地域的にも国家的にもそして国際的にも求められているのです。

いまめざすことのいくつか：

- ・参院選で「新地域支援構想」を推進する人材を国会へ送って「高年齢社会グランドデザイン」を
- ・一つひとつは水玉模様のように小さくともみなが安心して暮らせる「地域支え合い生活圏」を
- ・「社会の高年齢化」に努める個人・団体が連携して長寿社会の骨格をつくる「平成五百壮士」に
- ・「日本長寿社会」へのプロセスが後進高年齢化国の形成する新しい社会の「先行成功モデル」に

「人生90年時代」のweb情報誌「月刊丈風 2016年3・4合併号（47号）」を参考にお届けいたします。「月刊丈風」（丈風の会）は連携のための拠点として烽火をあげました。だれもが安心して暮らせる「平成成長社会」達成への発信源として先陣をつとめます。

添付「月刊丈風」「丈風」2016年3・4月合併号a.pdf 「活動趣意と会員情報」[全情報20160503](#)

失礼があればお恕ください。またご賛同のうえお仲間に転送をお願いします。